

JCI コンクリートセクターにおける地球温暖化物質・廃棄物の最小化に関する研究委員会
WG3, WG4 議事録 (案)

□日時：2009年1月7日(水) 13:00~16:00, JCI11F 会議室

□出席者：堺委員長, 野口幹事, 河合幹事, 小山幹事, 大脇幹事, 有川委員, 上野委員, 手塚委員, 柳橋委員, 道正委員, 兼松委員, 村田委員, 川西委員, 間宮委員, 竹田委員, 松家(記録)

□配布資料

WG3,4-3-1 第2回 WG 議事録(案)

WG3,4-3-2-1 CO₂ および廃棄物最小化に向けたシナリオ

WG3,4-3-2-2 産業連関表を利用した建築業の環境負荷推定(日本建築学会計画系論文集)

WG3,4-3-2-3 長寿命化対策のライフサイクル資材使用量と二酸化炭素排出量に与える影響(日本建築学会計画系論文集)

WG3,4-3-3 PC 橋の削減シナリオ

WG3,4-3-4 環境研究機関連絡会成果発表会資料

WG3,4-3-5 超長期住宅ガイドライン(取扱い注意)

□議事-WG3(ポートフォリオ WG) および WG4(社会システム WG) の検討内容について

- ・ 二酸化炭素および廃棄物最小化に向けたシナリオの中で、原子力に移行(エネルギー転換)した場合の二酸化炭素排出量の減少は考慮する必要があるが、人口減少問題は本委員会の中では考慮しない。何かを造る時に、材料・構造的技術などにより二酸化炭素を削減できるためのシナリオを考える。
- ・ 長寿命化技術は資源循環の観点からすれば有効。ただ本委員会の中でコントロールできる範囲でなければならぬ。シナリオの中にメインファクターとして入れるのが合理的なのかを最終的に議論しておく必要がある。長寿命化技術を考慮しないと大量消費・大量生産を推奨してしまうことになり一般論の話から逆行してしまう。
- ・ コンクリートの耐用年数を 200 年とすると、その分だけ廃棄物の削減に伴い二酸化炭素量は減る。このことを考えると、長寿命化は視野に入れておく必要がある。長寿命化の効果は出ないかもしれないが、とりあえず 2050 年をターゲットとする。
- ・ 長寿命化技術は 2050 年以降の CO₂ 量を極端に減らすことが考えられる。そのため、こういう条件がそろえばここまでの二酸化炭素の削減が可能であることを試算し、予測シナリオとして提示する。
- ・ 長期的な話と短期的な話を一緒に考えると難しくなる。長期的な話と短期的な話はそれぞれ別個に考えていくことが必要である。
- ・ 長寿命を考える際には、補修サイクルの時期もつめておかなければならぬ。メンテナンスの方法も考えて、最も廃棄物が少ない技術を提示すると有益な情報になる。
- ・ インセンティブを与える意味で長寿命化を考えておくことは必要であるが、本委員会の中でコントロールできる範囲を線引きしておく必要がある。
- ・ 社会の問題とコンクリートセクターの問題、全体の問題と個別の問題を分けて議論していかないと分らなくなる。また理想的な話をベースにすると、本質的に重要な部分が抜け落ちる可能性がある。
- ・ CO₂ 削減シナリオの考え方・コンセプトでやっていくのか本委員会の中で合意しておかなければならぬが、まずはシナリオの骨子を作らないと具体的な話ができない。
- ・ 総合評価入札の中に環境性能を入れることは最も有効な手段ではあるが、コストパフォーマンス抜きで環境性能にウエイトをおくことは難しい。コストと CO₂ のバランスの問題。
- ・ 環境のウエイトを重くするには、評価点を高く設定する必要がある。建設業界の二酸化炭素排出許容量を割り当てを至上命題にすれば環境のウエイトは重くなる。つまり、二酸化炭素削減の絶対量が決まればやりやすい。
- ・ 中期目標が設定され二酸化炭素排出量を 50%削減することになれば、建設業界も技術革新をしていか

なければならない。国内的・国際的な視点のどちらで判断していくかで異なる試算結果になるが、基本的には国内。ざっくりとした形で国際的な試算も行う。

- ・ 要素技術を個別の状態を考えていかないと話が進まない。漠然と考えていると話が進まない。要素技術を整理し、組み合わせ可能な技術を抽出してく。
- ・ 建設産業に排出される CO₂ 量のベース値を設定してはどうか。ポートフォリオを行う際に、ベースの値があればわかりやすくなるはず。
- ・ 森林管理などもシステムの中に入れてみてはどうか。引き続き、色々な形で施策を提案していく。

□次回 WG

日時 ; 2009 年 3 月 25 日 (水), WG1+2+3+4 (全体会議) : 13-17 時

場所 : JCI 第 5 会議室 (11 階)

宿題 : WG3—これまでに提出した要素技術の整理 (1 つの技術につき A4-1 枚ものに整理)。

河合先生が引き続き, 国内建設業関連全体の 1990 年度年間 CO₂ 排出量 (構造物別内訳, ライフサイクル段階別内訳) を調査。

WG4—CO₂ 削減の要素技術に対する技術経済的・社会的課題の抽出 (配布資料 WG3,4-3-2-1 参照)。

以上